

緑化通信

2015
2月25日
(年7回25日発行)
第443号



発行所

一般社団法人 日本植木協会

〒107-0052 東京都港区赤坂6-4-22 三沖ビル3階
TEL.(03)3586-7361 FAX.(03)3586-7577
URL: http://www.ueki.or.jp/
E-mail: honbu@ueki.or.jp



購読希望の方は上記宛へお申込み下さい。年間購読料 5,000円

平成二十七年通常総会及び 創立四十五周年記念全国大会を開催

1月23日 品川プリンスホテルで

〔一社〕日本植木協会は、平成27年度通常総会及び創立45周年記念大会を、1月23日(金)東京都港区の「品川プリンスホテル」で開催した。



〔総会前理事会〕 通常総会の開会に先立ち、総会運営の確認等を図るため正副議長打合せ及び総会前理事会を開催した。出席者は、三役、正副議長及び理事・監事等18人と事務局。議事は平成27年度総会等への対応、役割分担等について打ち合わせを行い、円滑な総会・大会の運営を図ることとした。

〔通常総会〕 次いで、平成27年度第42回通常総会は、午後1時半から開会し、開会に先立ち、事務局から定足数の確認が行われ、本人出席123名、委任状162名、計285名で総会が有効に成立したことを告示した後、大倉副会長の開会の辞で開幕した。はじめに水城会長の挨拶があり、平素の活動への謝意と設立45周年を迎えたことを報告し、コンテナ部会が推進したミウラ折りと、及び緑育出前授業に触れたのち会場設営の関東ブロックへ謝意を表した。

〔議案審議等〕 議事に入って、先ず、議長には、議長相澤裕氏(有相澤園芸/栃木県)を、副議長に山田富夫氏(株)山田種苗園/新潟県)と清水宣昭氏(有清水種苗/埼玉県)を選出。また、議事録署名人に鶴澤栄氏(八街植木/千葉県)、石井豊氏(石井植木/神奈川県)が指名され承認された。議事は、審議事項の第一号議案 平成26年度決算報告及び監査報告について郡司事務局長が26年度事業報告をした後に決算報告を行い、岡部監事が監査報告を行った。議長が会場に語り、熊本県支部会員から、収支計算書報告の際に今後は事業収入金額の他、事業支出金額の報告を要請され、その他については賛成多数で承認された。

〔創立45周年記念全国大会〕 続いて45周年記念全国大会は15時から大倉副会長の開会宣言で始まり、出席者は、関係行政庁、関係団体からの来賓28名(懇談会出席を含む)と会員等総勢205名であった。水城会長が「来賓への謝礼、創立以来の行事に触れ今日までの謝意を表し、今後の東北復興、東京オリピック・パラリンピックにみどりの需要増の期待、今後永く本会が新しい東京・新しい日本の創造に携わっていかれるよう挨拶した。

水城清志会長挨拶



皆様、あけましておめでとうございます。平素より植木協会活動・事業に対し多大なるご協力をいただき、また本日はご参集いただきまして本当にありがとうございます。

日本植木協会は設立45周年を迎えることになりました。昭和46年に大阪で設立したのち、平成2年大阪花博、平成16年浜名湖花博など、諸先輩方、会員の皆様方のご尽力の結果、多くの事業を推進して参ったわけでございます。会員減少にもいくらか歯止めがかかってきたようであり、今からは、2020年東京オリンピック、東北の震災復興など、将来的に明るい見通しがあり期待を寄せている所でございます。

一般社団法人として3年目を迎え、協会内ではコンテナ部会においてミウラ折りという非常にユニークな病害虫防除ガイドを作成されましたし、広報ではホームページのリニューアルなど、色々と事業改革を進めている所でございます。特に緑育出前授業については、7年間で64回、4,427名のご参加を頂くという実績を積み重ね、全国各地で「緑」の教育の場の創設、啓蒙普及活動にご尽力賜り、ご担当された青年部会、そして協会員の皆様方に感謝申し上げます。

また、本日の総会、大会開催にしまして、関東・甲信越ブロックの皆様には一方ならぬご協力をたまりません。この場をお借りして御礼申し上げます。結びに、協会の益々の発展と、会員の皆様の今年一年のご健勝をご祈念申し上げます。開会の言葉、お礼の言葉とさせていただきます。本日はありがとうございました。

後資格保持者を増加する必要性を回答した。

報告事項終了後に、大分県会員から会員の再入会について、入会金の免除が出来ないか検討要請が有り、理事会で検討する旨の回答をして議事は終了した。続いて新入会員の紹介、次期通常総会開催地の紹介、青年部会紹介、賛助会員紹介、ミウラ折りの紹介等が有り、午後2時52分に終了した。

続いて45周年記念全国大会は15時から大倉副会長の開会宣言で始まり、出席者は、関係行政庁、関係団体からの来賓28名(懇談会出席を含む)と会員等総勢205名であった。

水城会長が「来賓への謝礼、創立以来の行事に触れ今日までの謝意を表し、今後の東北復興、東京オリピック・パラリンピックにみどりの需要増の期待、今後永く本会が新しい東京・新しい日本の創造に携わっていかれるよう挨拶した。

続いて相澤ブロック長の挨拶、ご来賓挨拶として林野庁今井長官、農林水産省生産局長挨拶を夢沼園芸作物課長から、国土交通省挨拶を終了した。

〔記念講演〕

1. 協会長感謝状
南出(株) 古部和彦 氏
長野県林業大学校講師
大木正夫 氏

2. 従業員永年勤続表彰
石川環境緑化(株)

3. 新監事
矢作 勇 氏

任期 平成28年総会時



林野庁長官 今井敏氏
ごあいさつ

〔記念講演〕 記念大会終了後、国土交通省都市局公園緑地・景観課緑地環境室長町田誠氏による講演を頂いた。(講演内容は次ページ)

コンテナ農場(100万本生産)

コンテナ農場

(株)瀬戸内園芸センター

愛媛県今治市旦甲 248-1 TEL 0898-48-0010(代) FAX 0898-48-8187
http://www.setoen.com/ E-mail: setouchi@setoen.com

主な生産物
クロマツ コニファー類 ヤシ類
カシ類 クスノキ タブノキ
モチノキ ウバメガシ オリーブ
カクレミノ クロガネモチ
サンゴジュ シマトネリコ
マテバシイ ヤブツバキ ヤマモモ
レッドロビン オウゴンマサキ
カンツバキ(赤花と白花) サザンカ
シャリンバイ ツツジ類 トベラ
ハマヒサカキ ヒサカキ ミカン類
サクラ類 イロハモミジ ハナモモなど

オリーブ
カンツバキ赤花と白花

緑は地球を救う

創立45周年 記念講演

都市の緑の保全・創出と 2020年の先の展望

国土交通省 都市局 公園緑地・景観課 緑地環境室長 町田 誠 氏



まちだ・まこと
55歳。東京都出身。千葉大学園芸学部環境緑地学科卒業。1988年建設省(現国土交通省)入省。本省のほか、2003年(現)2005年日本国際博覧会協会会場整備本部会場整備グループ長、2008年(現)国土交通省都市局公園緑地部長などを経て現職。公職として、公益社団法人日本造園学会関東支部副支部長。

都市の緑には、休養・休憩の場、レクリエーション活動の場、動植物の生息・生育環境の場、また火災発生時の延焼防止などの機能・効果があります。これらの大切な機能・効果を維持するため、都市の緑を守り、創り出していかねばならないわけです。

都市の緑の変遷

高度成長期には、多くの農地や林地が宅地に変わりました。首都圏の東京都、千葉県、埼玉県、神奈川県の一都三県では、昭和40年から平成17年にかけて約20万haの緑地が減少しました。40年間で実に一都三県のうち東京都一個分の面積に相当する緑地が減少したというわけです。

全体的に農地や林地が減少する中で、都市公園の面積はどうか推移したのかといえます。平成8年に都市公園建設事業費が1兆2,000億円超とピークを迎えたように、数々の都市公園建設事業の積み重ねの結果、都市公園面積は年々増加し、現在は約12万haをストックする状態にまでなりました。

この12万haという数字は、日本の国土全体から見ると少ないような気がするが

もしませんが、これは決して少なくない数字で、都市公園を「か所にまとめる」と沖繩本島と同じくらいの大きさとなり、国民一人当たり6畳(10㎡)の公園を所有している状態なのです。この12万haの公園という社会資本をもっと有効活用し、間違っても不良資産などと思われ

ないようにはする必要があります。しかし、海外の主要都市と比較するとまだまだ圧倒的に少ない状態と言わざるを得ません。東京23区とウィーンを比較した場合、東京23区の公園面積はウィーンの約1/3程度で、日本の都市は緑が不足している状態なのです。

これからの時代が抱える問題点とは

このような状況下で都市の緑の政策を考えるためには、これから先の時代が抱える問題点を整理する必要があります。

まず、人口減少と高齢化の問題が挙げられます。日本の総人口は2004年をピークに減少に転じました。今後、15〜64歳までのいわゆる生産人口は減少し、65歳以上の高齢者の割合が増加し続け、やがて2030年には65歳以上の高齢者の割合が総人口の30%程度になると予測されています。

それに伴い、当然税収が減少します。現段階において既に、地方の歳出に占める土木費の割合は一貫して減少傾向です。国においても国債費、社会保障関係費、地方への交付金などの歳出が全体の7割を占め、国自体の裁量的な歳出は残りの3割程度です。

公共から民間の緑へ

平成22年の大都市圏に関する世論調査では、国民の約9割が「緑地を保全すべき」と考え、「民有緑地については土地の所有者の同意を得ながらNPOや行政

これからの取り組みの方向性

総合的な都市のみどりの保全・創出

- 多様な主体 (公共、民間企業、市民、NPO etc...)
- 多様な空間 (公有地・民有地/人工地盤、壁面 etc...)
- 多様な手法 (公共事業、土地利用規制、税制、認証、顕彰、普及活動 etc...)

公共投資主導型の公園緑地政策から

地域の独自の取り組みを支援する政策、国民・企業の活動にインセンティブを与える政策への方向転換

●●●民有地の緑地保全・都市緑化の推進が重要

して保全されます。東京の練馬、足立区などでは屋敷林がこの制度で保全されています。

これより緩やかな制度である市民緑地制度では、自身の敷地(緑地)内に地域住民が入ってきてほしいよ、という緑地の公開に関する契約を地方公共団体と結ぶと、相続税が2割評価減になるなどの恩恵があります。

平成16年の法改正でできた緑地地域制度は緑を作り出す制度です。現在、名古屋、横浜市、世田谷区、豊田市の4地区のみで指定

されていますが、先進的な市区町村でも検討が進められている状態です。一定規模以上の建物の新築時に敷地面積の25%以上を緑化することなどが義務づけられています。このような地区指定は、緑の需要にも繋がっているとも言えるのではないのでしょうか。

また、建築基準法の中に1976年に創設された総合設計制度は、公開空地を作ると容積率、高さ制限などが緩和されるというボーナスがもらえる制度です。

東京都のデータですが、昭和51年から現在に至るまで230haの公開空地、平成12年から24年の間に200haの屋上緑化と、二つだけでも東京都内に400haを超す緑が民間の方々によって生み出された事になります。平成12年から現在に至るまでだけを取り出しても300haを超え、この間に23区内で生み出された都市公園が346ha程度ですから、公共とほぼ同じボリューム、スピードで民間事業者の手によって緑地が生み出されているということになります。

また、緑に対する助成制度等をもって自治体は500自治体、緑に関する独自の条例や緑の基本計画を策定している自治体は800くらいあります。こういった、熱心な地方公共団体の取り組み

街路樹を考える

最近、街路樹に大きな問題意識を持っています。日本の緑に占める街路樹のボリュームは相当大きく、緑豊かな良好な都市景観に果たす役割も大きく、今後のためにも街路樹問題にきちんと対応する必要がありますかと思っています。

さきほど都市の中で生み出されている緑は増加しているという話をしましたが、しかし、その中において街路樹は減っているのです。道路延長は増加しているのに街路樹が増えないのはなぜでしょうか?それは街路樹を適正に管理することが重荷になっているからにほかなりません。

まず苦情の多さです。東京都における街路樹に関する苦情件数は年間3,000件を超えます。一日当たりすると8件以上の苦情が寄せられているという現状です。

そして、予算不足・人手不足で適切な管理まで至らないという状況に追い込まれており、台風でケヤキが倒れタクシーを直撃したりというような事故につながる

たりしています。そのような事故になる前に、予防的な伐採、強剪定が行われる現状があります。

街路樹は、道路法、道路構造令、道路緑化技術基準という3つの法令、基準類で位置づけられています。現在、上記のような街路樹の問題を踏まえ、道路局で道路緑化技術基準の改訂が進められています。先日、視察に影響するため街路樹の低木がなくなる、というような新聞報道があったようですが、必ずしも一律にそういう見直しが進められるということではなく、各地域の実情に合わせた街路樹のありかたを考えていくという方向性なのではないかと予想しております。

植物を慈しむ精神文化を

強剪定が行われた並木などを見るにつけ、市民の皆さんは「これはいやだ」と感じないのかなあと思います。緑に関する普及啓発がもっと行き届いていれば、「もっと良い緑が欲しい」という意見も多く寄せられて、街路樹に関する予算も充たされ、鉛筆やろうそくのように剪定される街路樹の風景には至らないはずです。

公共的な投資なり税収が減る方向の制度を行う際は、何らかの価値観が重要であると判断され、最終的にはコストとのバランスで費用対効果が認められるか否かという見方がなされ、政策の実行は判断されます。こうした価値観を構成する要素のうち「安全・安心」や「経済」という要素に「環境」という価値観があらがえることはなかなかできないわけですが、「環境」という価値観がどれだけ重要視されるかということ、そうした社会環境を作り出せるかということがポイントです。

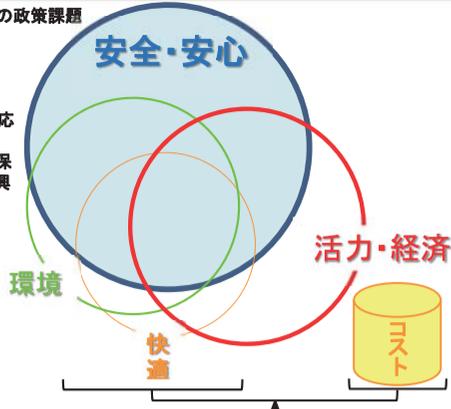
都市の緑がどうして必要

街路樹を取り巻く社会環境等

- 日照に関する苦情
 - ・ 枝葉で家に光が届かない(日陰)
 - ・ 耕作地が日陰になる
- 落葉に関する苦情
 - ・ 落ち葉が樋、道路側溝に詰まり排水不良を起こす
 - ・ 落ち葉で道が滑りやすくなる(車のスリップ、歩行者の転倒)
- 虫害に関する苦情
- 鳥害に関する苦情
 - ・ カラスなどの営巣(騒音害、糞害、人を攻撃)
 - ・ ムクドリなどのねぐら(騒音害、糞害)
- 枝葉で信号、標識、店の看板等が見えなくなる
- 根上がりにより歩道が盛り上がる(不陸)、家が壊される(動かされる)
- 倒木、枯れ枝の落下の恐れ
- 電線、電話線等の架空線との干渉
- 道路の建築限界線を超える枝葉の伸張
- ⑩ 予算不足・人手不足

「安全・安心」や「コスト」とトレードオフの関係か

- 社会資本整備重点計画 9つの政策課題
- ①国土の保全
 - ②暮らしの安全の確保
 - ③地域の活性化
 - ④地球環境問題への対応
 - ⑤急激な少子・高齢化への対応
 - ⑥人口減少への対応
 - ⑦快適な暮らしと環境への確保
 - ⑧交流の促進、文化・産業振興
 - ⑨国際競争力の確保



生き物としての植物をもっと慈しむ精神文化が必要

「緑のライフスタイル」が定着するようにしていきたいと思っていますので、ぜひ活動にご協力頂きたい、と思っています。

先も都市の緑を厚くして行って、将来、東京が、そして日本全国の都市で緑が増える、「緑のライフスタイル」が定着するようにしていきたいと思っていますので、ぜひ活動にご協力頂きたい、と思っています。

環境(緑化)という分野を伸ばすためには、こうした三つの緑の効果も、定量的な数字やあるいは定性的な事象で表現し、価値を明確化することが大切なのはもちろんですが、一方で、本当に緑豊かな都市環境をつくるためには、植物の機能による恩恵を受けるという観点に加えて、すべての生き物の生命を支えている植物をもっと慈しむ精神文化を、広く深く定着させることが必要である

環境(緑化)という分野を伸ばすためには、こうした三つの緑の効果も、定量的な数字やあるいは定性的な事象で表現し、価値を明確化することが大切なのはもちろんですが、一方で、本当に緑豊かな都市環境をつくるためには、植物の機能による恩恵を受けるという観点に加えて、すべての生き物の生命を支えている植物をもっと慈しむ精神文化を、広く深く定着させることが必要である

なにかを主張する拠り所として、私たちはよく三本の柱で説明します。一つ目は「地球温暖化対策」です。実際、都市の緑は2008年から2012年の第一約束期間において、1990年比で100万トンの新たなCO₂を吸収し、国際貢献をしています。二つ目は「ヒートアイランド対策」です。地球温暖化よりも速いスピードで都市が20年単位で3〜4℃上昇しているという問題です。年間1,000人を超える方が熱中症で亡なっているデータもあり大変深刻な問題です。三つ目は「生物多様性」。名古屋で開催されたCOP10以降、都市における生物多様性保全の取り組みも大きく注目されています。これらの問題に都市の緑が大変貢献していると訴え続ける必要があります。

環境(緑化)という分野を伸ばすためには、こうした三つの緑の効果も、定量的な数字やあるいは定性的な事象で表現し、価値を明確化することが大切なのはもちろんですが、一方で、本当に緑豊かな都市環境をつくるためには、植物の機能による恩恵を受けるという観点に加えて、すべての生き物の生命を支えている植物をもっと慈しむ精神文化を、広く深く定着させることが必要である

2020年をきっかけとして

東京の水と緑の骨格の再構築・強化を図る

将来に向けて

- すべての生き物を支えている緑を慈しむ精神文化の確立
- 緑とともにあるライフスタイルの定着
- EDO→TOKYO グリーンプライドの再興

講演後、会員からは主に街路樹に関する質問が寄せられた。

(質問) 現在、生産者から見ると、街路樹は可哀そうな状況にあります。その可哀そうな状況を改善するために、法律を改正して道幅や植え鉢の大きさを変える方向に出来ない物でしょうか？また、環境寿命の観点からリニューアルということも考えられませんか？

リンピックもそれに気づいてもらう、緑の良さをPRする大きなきっかけとなります。映像で映し出される東京の美しい街並みによって、立派な街路樹があるほうがいいんだ！と多くの方に理解してもらいたいと思っています。

(質問(依頼)) 2020年東京オリンピックのマランコースでは、ミスト発生装置により沿道の暑さを緩和する試みが進められていると聞いていますが、それよりも道路が樹木の樹幹で覆われ、その木漏れ日の中を選手が走るようなシーンをぜひ実現してほしいです。

(質問) 街路樹も消費期限が30年とかを設けた方がよいのではないのでしょうか？

(回答) 公園を例にしますと、公園は「成長する社会資本」とよく言われます。経年とともに価値が上がりますので、樹木は切ってしまうもの、という概念が根強く存在しています。そうは言いますが、街路樹に限らず、一部の都市公園では樹木が大木となり鬱蒼と密集化している状況もあり、すでに思い切った再生整備が始まっている所もあります。街路樹においても、植え替えるという発想が今までなかったわけですが、植え替えは、数十年前に植栽し、今初めて直面している問題ですので、これからしっかりと考えていかなくてはならない問題だと考えています。

街路樹管理の財源については、全国的に公園担当部局ではなく、道路担当部局において実施されていることが多いようです。また、いわゆる道路特定財源は、すでに一般財源化され、ご質問の趣旨にお答えするのは難しいのですが、最近、緑に着目した特定の財源を持つ先進的な自治体が出てきていますので、緑や環境の目的税が増えていくことを期待できればと思います。

枝・葉クイズ

こたえ ⑩

ボケ [木瓜]

Chaenomeles speciosa

●落葉低木

1.5m程度 樹形は半球形(中国で自生)

●特徴・特性

葉は長さ4~8cmの狭卵形または長楕円形。先は尖り、基部はくさび形。縁には細かい鋸歯がある。表は濃緑色で光沢があり、裏は淡白緑色で、両面とも無毛または裏の葉脈上にわずかに毛がある。早春から赤い花をつけるのが魅力で、他にピンク、白、絞り、クリーム色等品種が多い。実は香りがよく、果実酒が楽しめる。

●主な品種

‘東洋錦’(咲き分け)・‘長寿楽’(橙色)・‘黒潮’(黒赤色)・‘大八州’(白色)・‘富士の嶺’(ピンク色)・‘黄華’(黄白色)

類似種/クサボケ

◆見分け方

クサボケは葉が丸い。樹形は株状で、樹高も低い。

●利用法

庭園樹、公園樹、生垣、盆栽、果実酒。

◆その他

平安時代に渡来したと言われ、江戸時代に多くの品種が作られた。



『鑑定図鑑 日本の樹木一葉で見分ける540種』(三上常夫・川原田邦彦・吉澤信行著、日本植木協会編集協力、柏書房、2009)より抜粋

シマトネリコ 30,000 株
タマリユウ 60,000 マット
直営農場で生産中

3.11 震災復興に向けて
シャリンバイ(15vp)
30,000 ポット



タマリユウ・シマトネリコ生産販売

タマリユウジャパン

タマリユウ定期便で
いつでも・どこへでもお届けします。

●ご注文はホームページ、
電話・FAX・メールでも承ります。

〒893-0013
鹿児島県鹿屋市札元2丁目 3727-2
TEL: 0994-44-6993
FAX: 0994-44-6996
URL: http://www.tamaryu.jp/
E-mail: net-shop@tamaryu.jp

環境省主催 第9回

「みどり香るまちづくり」 企画コンテスト 入賞団体決定

環境省 感覚環境のまちづくり検討会 「第2回かおり環境部会」開催

環境省では、「かおりの樹木・草花」を用いて、良

好なかおり環境を創出しよ
うとする地域の取り組みを
支援することを旨とし、平
成18年度より「みどり香る
まちづくり」企画コンテス
トを実施している。環境省
が主催し、(公社)におい
かおり環境協会、(公社)
日本アロマ環境協会、及び
(一社)日本植木協会が共
催。

12月5日(金)環境省会
議室において環境部会委員
が出席し、平成26年度感覚
環境のまちづくり検討会
「第2回かおり環境部会」
が開催された。環境部会委
員は、(公社)におい・か
おり環境協会会長・岩崎好
陽氏、本協会副会長・植島
清春氏、(公社)日本アロ
マ環境協会理事長・宇田川
僚一氏、東京農業大学名誉
教授・近藤三雄氏、追手門
学院大学地域文化創造機構
特別教授・佐藤友美子氏、
㈱松栄堂社長・畑正高氏、
久留米大学経済社会研究
所・藤田八輝氏の7名(50
音順)で構成される。オプ
ザーバーとしては、(公社)
日本アロマ環境協会、(公
社)におい・かおり環境協
会、(一社)日本植木協会

が参加した。
コンテスト応募企画25点
のうち、事前の書類審査に
おける上位11点の概要を紹
介後、各委員が企画の再評
価を行い審査した結果、環
境大臣賞1点、(公社)日
本アロマ環境協会賞1点、
(公社)におい・かおり環
境協会賞1点、(一社)日
本植木協会賞1点、入賞3
点の合計7点の受賞団体を
決定した。
今回初の試みとなったキ
ャッチフレースコンテスト
では、応募816点より事
前に30点を選出され、部会
内で再評価した結果1点が
選出された。
受賞団体には、副賞とし
て香る樹木・草花が贈呈さ
れる。植木協会賞は植木協
会より納入贈呈し、それ以
外の6団体にはアロマ環境
協会出資のもと、植木協
会・新樹種部会が手配し、
27年度中に納入贈呈する。
◇
日本植木協会賞は、秋田
県横手市の㈱秋田ふるさと
村、むつみ造園土木(株)の秋
田ふるさと村「香りの小
道」プロジェクトが受賞。
年間60万人が訪れる県立の
文化複合型テーマパーク内
に、季節の移ろいと香りを

日本アロマ環境協会賞

「季節の香りと彩りを、か
げがえのない思い出に」
(愛知県新城市)
企画者：花いっばいプロジ
ェクト

「使用する主なかおりの樹
木」シバザクラ、ラベンダ
ー等(㈱レコムグリーンよ
り納品)
〈入賞(3点)〉

「1」かおりの発信地か
ら「ハープの香りに包ま
れた生活を」(神奈川県
藤沢市)
企画者：公益財団法人藤沢
市まちづくり協会

使用樹木：ローズマリー・
クリーピング、クちなシ等
(尾上園より納品)
「2」ブルームガーデン
のぞみ野 Fragrance-
tree Project「みどりの
香る街(つくり)」(兵庫
県姫路市)
企画者：のぞみ野団地管理
組合法人(株式会社スピナ
リカン等(佐野園より納
品))
「使用する主なかおりの樹
木」ヒメシヤリンバイ、キ
ンカン等(佐野園より納
品)

「香りも楽しめる現代の日
本庭園」住宅街・日本庭
園・多摩川をつなぐ、香りの
道(東京都世田谷区)
企画者：セントスケープ・
デザインスタジオ十高崎設
計室(世田谷区役所みどり
とみず政策担当部公園緑地
課玉川公園管理事務所、株
式会社自然教育研究センタ
ー)
「使用する主なかおりの樹
木」フジ、イブキジャコウ
ソウ(㈱小金井園より納品)

「香り」香りで立ち止まり
香りで振り返る そんな街
が好き
応募者：倉田 明男さん

コンテナ部会

平成27年度コンテナ部会通常総会を開催
1月24日新橋ビジネスフォーラムにて

(一社)日本植木協会コ
ンテナ部会、平成27年度通
常総会及び記念講演は平成
27年1月24日(土)、9時
10分から12時30分に渡り、
新橋ビジネスフォーラム8
Fで開催された。吉澤部会
長、水城会長、正木担当理
事をはじめ協力会6名の総
勢52名の参加のもと盛大に
開催された。

参加者より承認を得て進行
した。
第一号議案 平成26年度事
業報告について
①会員動向報告は正会員3
社園退会し1社園入会の1
23社園と協力会員6社の
129会員の報告があっ
た。
②各委員会活動報告につい
て
各委員会報告は、パワポ
イントで各委員長が活動報
告を行った。
1) 総務会報告(中村委員
長)
(一社)緑のまちづくり
支援機構(GTS)参加と
部会PR、GTSでつなが
ったアースコンシヤスの屋
上緑化管理システムの応用
で圃場管理システムの推進
報告とミスト緑化の植物供
給ルートづくりと植物供給
販売を確立した報告があっ
た。
2) 広報・研修委員会報告
(梶村委員長)
部会PRとして緑化通信
執筆協力を行う報告と国内
研修会開催報告、そしてミ
ウラ折りにする病害虫防除
ぱっと見ガイド制作及び販
売協力の報告があった。
3) 流通委員会報告(山本
委員長)
供給可能量調査協力と生
産数量調査を実施しCDを
制作して部会に配布し、
両調査との懇談会を開催
して情報交換を行った報告
があった。

4) 資材委員会報告(恒石
委員長)
協力会との情報交換会、
展示会が総会、研修会とし
て秋の懇談会が諸事情で開
催できなかった事と資材セ
ールが消費税の関係で開始
が遅れた事、そして(株)ア
ースコンシヤスとの協働開発
事業の圃場遠隔灌水管理シ
ステムの報告があった。
5) 植生調査委員会報告(葛
西副委員長)
上条委員長病欠欠席の
為、葛西副委員長より協会
事業で開催された植生アド
バイザー試験実施と27年開
催予定報告があった。
6) 耐乾性試験実施委員
会報告(黒田委員長)
平成26年度国土交通省先
導的都市環境形成促進補助
事業の3地域・105種・
約40日間の試験実施経過報
告と画像説明報告が行われ
た。
第二号議案 平成26年度決
算報告と監査報告について
平成26年度決算報告で事
務局より記載ミス報告後、
各項目ごとの収入・支出の
報告に続き山本監査人より
監査報告があり諸証憑類、
諸帳簿並びに関係書類が正
である事を認めた報告があ
った。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

26年に引き続き国土交通
省都市形成促進事業補助事
業として千葉県、愛知県、
高知県で45種類の草木類の
試験調査に取り組む計画が
報告された。
第四号議案 平成27年度予
算案について
平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

議長は議事録署名人を埼
玉県の安行緑栄・鈴木徳昌
氏と岐阜県のバードグリー
ン・森田善朗氏を指名して
議題に入った。
議長は第一号議案と第二
号議案の関連性が高い為、
一括審議と裁決を提案し、
議決された。
議長は第一号議案と第二
号議案の関連性が高い為、
一括審議と裁決を提案し、
議決された。
議長は第一号議案と第二
号議案の関連性が高い為、
一括審議と裁決を提案し、
議決された。

業計画案について

各委員会事業計画案を事
務局より報告があった。
(1) 総務会
外部団体との調査・研
究、連携を密にし、継続的
発展を目指す、必要に応じ
て委員会を設置検討する
事、GTSを通じてコンテ
ナ栽培品の普及・啓発をは
かる事や各種補助金等の調
査研究を行う計画案が報告
された。
(2) 広報・研修委員会
国内研修会を6月10日、
12日四国開催計画と「病害
虫防除ぱっと見ガイド」販
売開始報告と購入協力要請
及び長尺植物普及計画案が
報告された。
(3) 流通委員会
供給可能量調査協力と生
産数量調査CD制作案と両
調査会懇談会開催予定及び
未掲載樹木調査協力案が報
告された。
(4) 資材委員会
協力会協力による春のセ
ール開催計画と総会・研修
会等での資材展示会開催計
画及び遠隔灌水システム開
発計画が報告された。
(5) 耐乾性試験実施委
員会

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

総会記念講演を開催

コンテナ部会総会後、小
出兼久先生より「これから
のグリーンインフラと植
物」と題した講演会が開催
された。
小出兼久講師プロフィール
1951年東京生まれ、
環境科学技術士、NPO法
人日本ゼリスケープデザイ
ン研究協会代表理事。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。

平成27年度予算案が収入
金と支出金が各項目ごとに
報告され、議長は第3号議
案と第4号議案を一括審議
し、賛成多数の拍手で了承
された。
その他の議題確認を議長
が行い、会場より議題が無
いため議長は議事を終了
し、退席した。
その他報告事項として新
入会会では平成26年度部
会入会会の(株)高橋魁春園
高橋誠氏が挨拶を行い、新入
会者を拍手で歓迎した。
各賞受賞者報告ではコン
テナ部会員で(一社)日本
植木協会各賞受賞者の報告
があった。
以上の報告があり、表彰
者に拍手でお祝いを行い和
やかなムードに会場は包ま
れ、審議、報告事項を全て
終了しコンテナ部会通常総
会は定刻に閉会をした。



小出兼久氏講演

コンテナ部会資料懇談会を開催



記念講演後、13時30分、15時00分、コンテナ部会協力会懇談会が開催された。恒石委員長をはじめ飯田副委員長、黒田・大森委員、吉澤部会長、松村／中村副部会長、(株)東海化成・矢嶋氏、南出(株)古部氏、(有)グリーンサポート・伊藤氏／池村氏、(株)阪中緑化資材・阪中氏、大信産業(株)・村上氏、正木理事、事務局の計15名が参加して開催された。恒石委員長の挨拶の後、

後、正木理事、吉澤部会長の挨拶が終わり恒石委員長の司会進行で、懇談会が進行した。

1. 参加者全員の自己紹介を協会員から順に都道府県名、社名として氏名と事業内容及び近況報告を行う。

2. 植木の樹種により非常に動させる優れたものです。国土交通省の補助金をもらい試験をしている耐乾燥性試験実施委員会では、千葉愛知高知の部会員の協力で屋上緑化に使用される植物材料の耐乾燥性(実際に植木を踏まえて屋上緑化に適用した植物を部会として推薦して行く所存です。平成27年度コンテナ部会

の指導のもとに、26年度は105種類の木本、草本種で実施して現在ではデータの分析中です。引き続き27年度も残りの45種で実施予定です。この試験により得られた結果を踏まえて屋上緑化に適した植物を部会として推薦して行く所存です。平成27年度コンテナ部会

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

2. 春の資材キャンペーンについて
例年通り3月10日(火)より4月10日(金)で行う事を決めた。

4. 協定会懇談会開催について、昨年は賛助会懇談会、研修会展示、総会展示、青年部会展示等の全

ての開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

部会だより

コンテナ部会の取り組み

コンテナ部会は、現在123名の部会員で活動しています。毎年数名の退会者がありますが、26年度は1名の新規入会社員がありました。役員は10名、5つの委員会等で活動しております。

総務会では、一般社団法人「緑のまちづくり支援機構」に参加して他業種と協働して都市での緑の新しい提案をしています。昨年は、ソル植物を利用した休憩スポットの試作に部会員より植物を出荷しました。またインターネットを利用した遠隔灌水システムの開発に部会員の施設を借りて試験地を設けました。このシステムは、出張などで圃場から離れた所においても、スマートフォンでハウス内に取り付けたカメラで植物の状態を確認して灌水装置を作

動させる優れたものです。国土交通省の補助金をもらい試験をしている耐乾燥性試験実施委員会では、千葉愛知高知の部会員の協力で屋上緑化に使用される植物材料の耐乾燥性(実際に植木を踏まえて屋上緑化に適用した植物を部会として推薦して行く所存です。平成27年度コンテナ部会

の指導のもとに、26年度は105種類の木本、草本種で実施して現在ではデータの分析中です。引き続き27年度も残りの45種で実施予定です。この試験により得られた結果を踏まえて屋上緑化に適した植物を部会として推薦して行く所存です。平成27年度コンテナ部会

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

2. 春の資材キャンペーンについて
例年通り3月10日(火)より4月10日(金)で行う事を決めた。

4. 協定会懇談会開催について、昨年は賛助会懇談会、研修会展示、総会展示、青年部会展示等の全

ての開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

「病害虫防除ぱっと見ガイド」は、広報・研修委員会で作ったのですが、特殊な折り方(ミウラ折り)で、手軽に仕事に役立つ情報を一枚の紙に纏めました。これを手始めに協会や部会の持つ様々なコンテンツを一般向けに出版して行ければと考えております。

恒例の国内研修会で昨年は北海道を訪れましたが、今年は四国で計画を練っております。四国には部会員も少なくまた移動距離も少ないため、圃場見学だけな

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

2. 春の資材キャンペーンについて
例年通り3月10日(火)より4月10日(金)で行う事を決めた。

4. 協定会懇談会開催について、昨年は賛助会懇談会、研修会展示、総会展示、青年部会展示等の全

ての開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

の開催が出来なかったために賛助会と協会の意見交換の場がない事を危惧する意見に対して、理事会上に賛助会懇談会開催の要望を出すことを事務局が確約した。

日本植木協会オリジナル「病害虫防除ぱっと見ガイド」申込受付中!

- ・パッと開いてパッと収納!人工衛星の太陽電池パネルに採用された最先端の折り方を採用!
- ・ポケットサイズだから、環境緑化樹木に対して害のある代表的な病害虫が現場ですぐわかる!
- ・造園工事従事者、公園管理者、樹木生産者の業務の補助、そして学校教材に最適



フィールドでパッと開けます(展開サイズ:430mm×570mm)

1. 形状 *収納(折りたたみ)サイズ(78mm×112mm×6mm) 展開サイズ(430mm×570mm) *水に強く汚れにくい光沢仕上げ
2. 価格 ①本体価格(税抜)500円/部 *最低注文数10部 ②送料(1ヶ所・税抜)...10部で300円 11部以上500部まで700円
3. 申込 *3月10日(火)必切 *植木協会ホームページより申込書をダウンロードし、FAX(03-3586-7577)送信願います。
4. 代金支払 *請求書が届きましたら、速やかにお支払いをお願いします。

※ご不明な点は(一社)日本植木協会コンテナ部会ぱっと見ガイド係までご連絡ください。

地方かわら版

私にできること

中部ブロック

森田善朗

(ハードグリーン・岐阜県)

幼い頃、近所の家に遊びに行くと幾つかの鳥籠があり、小さな鳥から鳩程の大きさの鳥が何羽かその籠の中に飼われていました。普段は近づいて見る事が出来ず飲み込んでいた我々の思いを代弁した話に大いに盛り上がり終りました。最後に、協会創立45周年記念講演会で国土交通省の町田室長が語った2020年に向けての様々な課題に、協会、部会が一体となって取り組む必要があることを実感して終わった2日間でした。

私が植木協会に入会させて頂いたのが20年程前になります。岐阜は元々植木の生産は少なく県西部に少しまとまってあった位でした。20年程前と言いますと植木業界としては大変勢いがある時代で毎年多数の入会者があったのを覚えております。公共投資も多く、これから先も益々伸びていくだろうと言う雰囲気にもなっていました。ガーデニングブームもこの頃だったように思います。少し遠い過去の話です。

新樹種部会

シジミバナ

Spiraea prunifolia



- *バラ科、落葉低木。樹高2.0m位。
- *中国が原産で、日本には古く渡来したものである。
- *近縁種のユキヤナギより少し遅れて、白の八重咲きの花が無数に咲く。
- *花の形が「蜆」に似ていることから付いた名前であるが、エクボに見立てたエクボバナの名前もある。
- *庭植えで大きく咲かせるのもよいが、鉢植えや切り枝として楽しむのにも適している。

●教育内容

年次	科目	主な教育内容
1年次	農業と環境 農業情報処理 造園技術 造園計画 測量	花壇設計・施工 草花栽培 坪庭の設計・施工 文書処理・ワープロ検定3級 造園基礎技能・技能検定3級 庭園の歴史・様式 製図演習 トレース技能3級 平板・水準・角測量
2年次	測量 地球環境化学 総合実習 造園計画 造園技術	測量技能検定 デジタルセオドライト操作 地球環境 生態系 樹木の整枝・剪定 庭園管理全般 トレース技能2級 庭園設計 CAD 造園技能検定3級 庭園施工
3年次	課題研究 総合実習 造園計画 造園施工	卒業制作 卒業論文 発表 車両系建設機械 造園施工管理士 CAD 造園技能検定2級 庭園施工

※ 2・3年生は以下の2コースに分割する。
 ○ 造園緑地コース・・・造園技能検定2級及び庭園施工・管理に重点を置く。
 ○ 環境デザインコース・・・庭園デザイン、CADに重点を置く。



〈生徒が保護者に松竹梅作りを指導中〉



〈現場実習先での作業の様子〉

(2) 親子で松竹梅を作ろう
 年末は学校で保護者とともに松竹梅作りを行います。保護者に指導するのは、勿論生徒であり、保護者は、子供の成長を喜ぶと共に生徒は、カリキュラムの理解を深め、世界に一つだけの松竹梅で新年を迎える取り組みです。

(1) 現場実習の推進
 新2年生は5日間、新3年生は7日間の現場実習を行っています。対象企業は25社の協力を頂き、造園企業、ワークショップ、植木産業等で全員が貴重な体験をしています。現場実習を通して企業の厳しさ、楽しさ、やりがいから礼儀、マナー等の社会性を学び大きく成長して帰ってきます。

(3) 柳坂曾根榎並木(梶指定天然記念)の保存活動
 毎年3年生が、卒業前の1月に福岡県、久留米市、地域と共同で行っています。内容は、200本のハゼ老樹の剪定及び施肥を



〈校区内にある公民館での室内庭園製作〉

の業務に関する経営者及び技術者を育成することを目標として、学科を改編し現在に至っています。
2 特色ある活動
1年次
 (1) 花壇の製作
 4月から班活動として花壇苗の栽培を行い、苗が揃ったら花壇製作を行います。各班は様々な花壇の様式を調査し、個性豊かな作品を作ります。



〈花壇の製作風景〉

(2) 造園技能検定2・3級
 2年生は1学期期末考査終了から8月初めの試験前日まで、毎日練習に入ります。全員合格を目指すのは勿論ですが、専門的知識技術を身につけるとともに、強固な体力と精神を養います。2級受験では、3年生の希望者のみですが、益明けから練習に入り8月一杯続きます。今年度は11名が受験し8名が合格しました。

(4) 地域ボランティア(独居高齢者宅庭木剪定)の実施
 3年生の恒例行事となっており、12月に6軒の独居高齢者宅を募集し、庭園管理ボランティアを行うことにより「緑」と「住環境」の先進的な学校となり、一人暮らしの高齢者にとって、心強い内容であり、地域から必要とされているボランティアです。

3 まとめ
 本校では環境日本一の学校づくりを目指して、校づくりに取り組んでいます。坪庭から借景庭園、そとおり、造園を将来の糧とする生徒を多く輩い出すことが私たちの職員全員の誇りです。

参考進路状況(平成26年度卒)

4年大学	9
短大・専門学校	4
公務員	3
造園企業	9
その他	11

学校紹介

全国各地の業界関連学校の様子を紹介いただくコーナーです。次世代の植木・造園業界を担う若者たちは、どのようにしてキャリアを形成し、本業界へアプローチするのでしょうか？ 来たれ若人、植木業界へ！

未来の業界を担う若者たち

福岡県立久留米筑水高等学校 環境緑地科

紹介者 藤井 安寿 教諭

日本列島植木植物園
 ナショナルプランツ コレクション*

ウメ '見驚'
Prunus mume 'Kenkyo'

- ・花は淡紅で大輪の八重咲き。香りも良い
- ・咲き始めの淡紅色がやがて白へと変化する移り白の華やかな雰囲気が見どころである
- ・野梅性で樹勢も強健。庭植えなどに向く
- ・大輪の花の美しさに見て驚いたのが名前由来である

※ナショナルプランツ コレクションとは世界的に価値のある植物の種・品種等を属のレベルで集め、植物の多様性の維持や希少種・絶滅危惧種の保護に役立てる事を目的としたコレクションです。

植木のお供に
アスコットの樹名札

ASCOT
 緑のこと、もっと伝えたい

- ・低価格でお客様のご要望に応えます！
- ・用途、環境に応じた多様なサイズ展開！
- ・耐候性に優れた高級素材を使用！

ABS ベース	MN-21 (大型) / 210×150×10
	MN-17 (中型) / 175×120×10
	MN-15 (小型) / 150×100×10
AES ベース	MN-S (Sモデル) / 120×80×2

株式会社アスコット
 TEL. 045-222-0215

〒231-0027 横浜市中区扇町 2-4-5-201
 メール / jumeifuda@ascot-f.co.jp
 www.ascot-f.co.jp/jumeifuda/

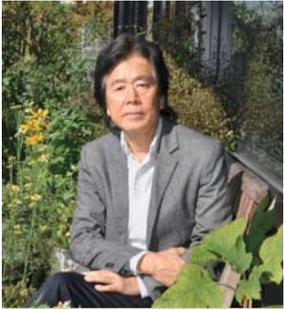
ホームページ制作なら **ガルテン・ブログ**

更新が簡単なホームページをお作りします！

20周年キャンペーン価格
 今ならスマホ対応サイト
 ¥158,000 → **¥128,000~**

オーセブン株式会社

本社：〒338-0004 埼玉県さいたま市中央区本町西 6-4-14
 TEL 048-840-1577 FAX 048-840-1579
 支店：〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 4-1-45 新大阪八千代ビル 3F
 TEL 06-4807-7737 FAX 06-4807-7727



リレー連載 うえきのちから

「八季」の「Jガーデン」で、人と街を蘇生

COM計画研究所代表 高田昇氏

植物のもつ人・街再生のパワーへの気づき

都市プランナーである私が、庭づくりを真剣に仕事の中に取り入れようと決めたのは、20年前の阪神淡路大震災がきっかけです。大阪に住み、仕事場を置く者として、当然のように直後から被災地に入り、調査から復興計画、そして倒壊したマンション再建、区画整理、再開発などに住民の立場をベースに行政、企業とも力を合わせて取り組むことになりました。しかし当初は結果し、助け合っていた人たちが、やがて半年経つ頃から、利害やエゴ、立場の違いが目立ち、集まって対立する場面が多くなってきたのです。そんな時、いつ誰が時のか空のあちこちでヒマワリやコスモスが一杯咲き、場の空気が一変し、みんなの表情が柔らかくなりました。そう言う私も昼夜、休日返上でストレスが高まっていったのが、胸がすーっとし、意欲が湧いてきたのを鮮明に覚えています。

植物はただ見た目の美しさだけでなく、私たちに蘇生する力を与えてくれることを実感しました。以来、私が関わった復興事業には、必ず花木をふんだんに取り入れることを提案、多くの共感を

たかだ・すすむ

都市プランナー・ガーデンデザイナー
COM計画研究所代表、立命館大学客員教授
大阪市生まれ、神戸大学工学部建築学科卒業後、1970年COM計画研究所設立、1990年立命館大学政策科学部教授就任。

その間、各地のまちづくり事業にプランナー・コンサルタントとして調査、計画、企画・推進、コーディネートの業務にあたり、各地でナチュラルガーデンを取り入れたまちづくりを積極的に展開。

主な著書に『フリースタイル・ガーデニング(創元社)』『ライフスタイル・ガーデニング(創元社)』『電柱のないまちづくり(共著・学芸出版社)』『都市再生・街づくり学(編・創元社)』『まちづくりフロンティア(オール関西)』『コーポラティブハウス(学芸出版)』『まちづくり実践講座(学芸出版)』。



写真① 震災復興で生まれたナチュラルガーデンのある再開発ビル

日本は庭づくりにとって奇跡的な好条件を持つ国

得、今も大切に住民の手で街と共に育てられている姿が見られます。

改めて植物、庭づくりについて勉強をし、実践を重ねる中で何気なく見過ごしていた季節とか晴雨、気温、足元の土、といった事象への見方が変わってきました。また始めの頃あこがれて読み漁り、訪問を続けたイングリッシュガーデン、森の都ウィーンやドイツの公園、市民農園など「植栽先進国」から多くの学びがありました。限られた針葉樹主体の環境に比べ、わが風土の優位性を知らなければ、それを深く極めたいと考えるようになりました。

黒潮という奇跡が20度の温水を熱帯から運び、暖められた海風が列島を走る山に当たって熱帯並みの雨水をもたらす。そのお蔭で豊かな広葉樹が育ち、数万種の生き物を育み、四季というより「八季」はある季節、真冬にも多くの樹々が葉をつけ、身近にも何十種もの花が咲く、同緯度の土地は殆ど乾燥地帯で、日本のような「温帯」は珍しく、こんなに多様な魅力ある植栽環境を創造できる国他にありませんか。その好条件をもっと生かすことで、日本の風景は大きく変わります。緻密に季節を伝える植栽群を創る

植物の成分、香りは脳・神経に効く

庭の力は語り尽くされた感があります。最近めざましいのは医療分野からのアプローチ。緑が視界にあるだけで緊張緩和、不安の解消につながり、自律神経の安定に役立つようなことは早くから言われてきました。ただそのメカニズムが良く知られていなかったのが、緑アルデヒドが脳の栄養素となることで脳のストレスを緩和し、あるいは木の発する成分、香りの中に脳疲労に働きかける要素がある、神経細胞を活性化させる、免疫力を高めるといった研究が進んでいます。

ヨーロッパでは早くから植物の精油やアロマウォーターの成分分析、効用が明らかにされて日常生活や治療に取り入れられ、アメリカでは今セラピーガーデン、ホスピタルガーデンとして多くの医療・福祉施設の植栽計画に生かされています。高血圧、糖尿病、脳疾患といった多くは生活習慣に起因する治療、予防の現場に植物が大きな役割を果たしているのです。そのことは、日常の暮らしのシーンでもっと認識されて良いし、欧米依存ではなく日本の恵まれた植物事情を生かせば、さらに可能性は広がります。

スギ、ヒノキやミント、ラベンダーの香り効果は良く知られているところですが、コナラやヤマボウシ、アオダモ、野草といった国土の特性を生かした多様な山野の草木の香りや庭への取り入れがまだまだ出来ると考えて「Jガーデン」を提唱しています。

街をみんなの庭と見立てる

植物の力を最大限いかすためには、とにかく身近に増やしていくことが何よりですが、人が集まる仕掛けづくりを含め

だけでも、そこから生きる力を引き出せることがあります。

「街とお寺をつなぐ庭」としたことがあり。また、滋賀県大津市では既存の緑地をリニューアル、4軒のカフェを囲む庭づくりをした「なぎさのテラス」、京都府福知山市では未利用の公有地に「市民の庭」と共に7軒のショップを配したゆるやかなガーデンをつくることで、人が集まり花や緑にふれる場が生まれました。滋賀県米原市では「木の幼稚園」をつくり、まわりを林やビオトープを感じさせる緑地をつんだところ、「子どもたちが放課後も残って長居する」との評判。今は大阪・茨木に春オープンする大学キャンパスに市民・学生と共に計画、育てていく里山やコミュニティガーデンの企画があります。そんな場で多くの人が草木と共にある日々の豊かさを実感し、わが家に、わが街に広がっていくのが期待できます。



写真② 街とお寺をつなぐ庭・知恩院の参道

部会だより

『今後の東北及び日本の緑化需要について』

青年部会 北海道・東北ブロック 上原 和直 (南上原樹苗・福島県)

まず、はじめに簡単な自己紹介をしたいと思えます。弊社は福島県にて緑化用苗木生産を行っている会社です。皆様ご存じとは思いますが、津波によりすべてを失いゼロからのスタートした会社です。この場をお借りして皆様の温かいお言葉ご支援賜りましたことを感謝申し上げます。

震災復興関連の中心における福島で営業致しておりますので、私から見える範囲、考えられる範囲での意見を述べたいと思えます。東北地方における緑化需要ですが、大きく分けると2つあると思います。

一つが東日本大震災の津波被害で失った緑資源の復旧需要です。一般住宅及び商業施設の復旧需要関連、海岸防炎林の復旧需要関連、道路復旧及び土木工事関連、などの既存であった緑資源の復旧需要。

二つ目が震災からの復興における新たな緑資源の創出です。新たなまちづくりの考え方における緑化構想など、既存であったものを元に戻す考え方ではなく新たな考え方での緑化需要。

大きく分けるとそのような二つになります。いずれも今後膨大な需要が見込まれます。

残念ながら東北におけるこの大きな二つの需要です。が長期的な需要ではありませんが。復興復興が進まない。復旧復旧が言われておりますが、着実に進んでいくのが目に見えておりまして。膨大な需要が見込まれておりますが、かなり早い段階で落ち着き戻していくのではと思えます。

現在の日本全体を考えたとしても緑化需要は飽和状態と考えます。東京オリンピック、考えられる範囲での意見、考えられる範囲での意見を述べたいと思えます。東北地方地域の飽和的な需要から底上げをいろいろな角度から緑化需要全体において試みる必要があるのではないかと考えています。

是非東北へ足を運んで頂いて東北のエネルギーを体感し、全国の地方地域の底上げのヒントをつかんでほしいと思えます。

もとのエンドユーザー様に多様な選択肢を提案するための材料、考えなどを提案出来るようにしなければなりません。

現在東北での仕事は使用する側と提供する側が「Win Win」双方に得になる良好な関係が定着しつつあります。なぜならば自然物である材料に限りがある中で最大限の結果が求められるからです。この考え方は今後の業界全体の生き残っていく道筋のように見えます。

まとめに大きな災害を経験した東北地域ならではの新たな復興に関わる緑化需要の創出をヒントにしたい。全国の地方地域に反映し、現在の一部地域の飽和的な需要から底上げをいろいろな角度から緑化需要全体において試みる必要があるのではないかと考えています。

南上原樹苗・圃場風景

年間連載 第2回

地方創生とみどり



造園家 涌井 史郎氏

最近「地方創生」の話題が... 昨年末の閣議で「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」を掲げ各々の自治体にその作成を督促することが決定された。

「住宅は時間軸を考慮して徐々に集約」することにより、コンパクトシティを形成する。また、「集落が散在する地域において、日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場を歩いて動ける範囲に集めた地域拠点の形成」などによる

「小さな拠点」による生活支援を行うことなどを掲げている。例えば、平日はブロック中核都市で働き、休日は田舎で両親の介護を行うなど、ブロック内の地域間連携により、東京への人口移動の「防波堤」にしたなどの構想である。

さらには成長を担う国土軸については、リニア中央新幹線を東京・大阪間で開業し、東京名古屋・大阪の3大都市圏を「超巨大都市圏（スーパー・メガリージョン）」として一体化させ、その上で、これに接続する新幹線や高速道路などの高速交通ネットワークを整備し経済効果を地方に波及させるべきとし、集中策による富の歪みへの対応策と、国際競争力を維持強化しようとする戦略を掲げている。

しかし、あの東日本大震災の復興に於いて、生活拠点が海沿いの表層が見えない刑務所の塀のような防潮堤が急ぎ建設されている。しかし江戸時代の人々であれば、仮に資金と技術がその時代にもあったとしても、そうした方策は採らなかつたことであろう。可能な限り自然と折り合いの付く手法、例えば治水における「水制」のような自然を活用する手法を探したに違いない。そうした知恵は、日本庭園の滝・流れ・池の手法に見事に表現され、さながら庭造りが治水の試験場とすら思えるほどである。

ここからみえてくるのは、豊かさを深められる未来の可能性である。もし豊かさの見える化という観点があるならば我々のライフスタイルの遺伝子の中に眠る、緑を主役とした都市や地域を再生し、自然と共生する知恵を景観として表現することではなからうか。

そうした意味でも地域の自然を熟知していればこそ成り立つ造園技術や植木生産にこそ存外大きな役割がある。地域材料つまり地場材料などが尊重されよう。

その一方、人口減に対応するために、国土像を大きく変貌させざるを得ない状況下であればこそ、悲劇的シナリオに耐久性のある都市や地方の再生が不可欠となる訳であるから、そこに社会的ニーズにも合致したみどりの再生創造というビジネスチャンスが大いに生み出される可能性がある。

その試算は、約38万平方キロメートルの我が国の国土を精査し、地域毎の人口推移を計算するところから始まった。その結果、今の居住地が、2050年にはその2割で人がいなくなり、6割で人口が半分に減る。さらに無人の地域は全体の約53%から約62%に広がる

ことが透けて見えてきた。そこで国土交通省は、こうした試算を基にして、国土整備の基本方針である「国土のグランドデザイン」を発表した。その概要

は、地方は「市役所等を中心とする街なか機能の再整備」「街なかと周辺部を交通ネットワークでつなぐ」「住宅は時間軸を考慮して徐々に集約」することにより、コンパクトシティを形成する。また、「集落が散在する地域において、日常生活に不可欠な施設・機能や地域活動を行う場を歩いて動ける範囲に集めた地域拠点の形成」などによる

「小さな拠点」による生活支援を行うことなどを掲げている。例えば、平日はブロック中核都市で働き、休日は田舎で両親の介護を行うなど、ブロック内の地域間連携により、東京への人口移動の「防波堤」にしたなどの構想である。

さらには成長を担う国土軸については、リニア中央新幹線を東京・大阪間で開業し、東京名古屋・大阪の3大都市圏を「超巨大都市圏（スーパー・メガリージョン）」として一体化させ、その上で、これに接続する新幹線や高速道路などの高速交通ネットワークを整備し経済効果を地方に波及させるべきとし、集中策による富の歪みへの対応策と、国際競争力を維持強化しようとする戦略を掲げている。

しかし、あの東日本大震災の復興に於いて、生活拠点が海沿いの表層が見えない刑務所の塀のような防潮堤が急ぎ建設されている。しかし江戸時代の人々であれば、仮に資金と技術がその時代にもあったとしても、そうした方策は採らなかつたことであろう。可能な限り自然と折り合いの付く手法、例えば治水における「水制」のような自然を活用する手法を探したに違いない。そうした知恵は、日本庭園の滝・流れ・池の手法に見事に表現され、さながら庭造りが治水の試験場とすら思えるほどである。

ここからみえてくるのは、豊かさを深められる未来の可能性である。もし豊かさの見える化という観点があるならば我々のライフスタイルの遺伝子の中に眠る、緑を主役とした都市や地域を再生し、自然と共生する知恵を景観として表現することではなからうか。

そうした意味でも地域の自然を熟知していればこそ成り立つ造園技術や植木生産にこそ存外大きな役割がある。地域材料つまり地場材料などが尊重されよう。

その一方、人口減に対応するために、国土像を大きく変貌させざるを得ない状況下であればこそ、悲劇的シナリオに耐久性のある都市や地方の再生が不可欠となる訳であるから、そこに社会的ニーズにも合致したみどりの再生創造というビジネスチャンスが大いに生み出される可能性がある。

広報からのお知らせ
植木協会ホームページ、日本列島植木植物園ホームページが新しくなりました。
スマートフォンやタブレットなどの携帯端末で閲覧しやすい仕様で、うえきのちから、えりかが行く！などの新コンテンツを掲載しました。
本誌1面 右上 QRコードからも閲覧可能です！
URL http://www.ueki.or.jp

ウエキノミライ

本業界の歴史、変遷について叡智を持ったキーパーソンの言葉から、未来を切り開く手がかりを探ります。

『インターネット販売について』

株式会社みどり 森 裕樹氏

現在36歳、植木屋を始めて8年、それまではプログラムやシステムエンジニアといったコンピューター関係の仕事

それでも、結果を出したいという気持ちが大きく、売れるのを待っている。今までの販売方法より、「こんな商品どうですか？」と提案型の販売に変えていかないといけないと思い、個人をターゲットに、インターネットオークションで、自社生産物の販売を始めてみると、少しずつ売れ、手ごたえをつかんでいった。

今後は、個人販売だけでなく、業者販売に対しても、提案型の販売方法をしていくことができれば生産物が安定的に使用され、植木の生産量の減少に歯止めをかけることができると思う。

ぐりーんぐりーんページ
ぐりーんぐりーん Green Green
オリーブ 地中海の密閉風
あなただけの本を作いませんか？
あなたの夢・あたためている作品を形にしてみませんか？

- 人事異動
農林水産省
1月23日付 本協会関係分
農林水産技術会議事務局局長 西郷 正道
(生産振興審議官兼生産局長)
(生産振興審議官兼生産局長)
鈴木 良典(穀物課長)
(生産局長) 穀物課長
川合 豊彦
(花き産業・施設園芸振興室長)
(花き産業・施設園芸振興室長)
(生産局長) 園芸作物課
花き産業・施設園芸振興室長
綱澤 幹夫
(穀物課米麦流通加工対策室長)

関東図書株式会社
自分史・写真集・画集・歌集・句集・詩集・小説・随筆 他を
お考えの方は、どうぞお気軽にご相談下さい。
編集スタッフが、お相手します。
ISBN(国際書籍コード番号)もとれます。